

明確なコンセプトを掲げて構築した 快適操作の電子カルテとPACSによる 病院に引けをとらないレベルの連動システム

「がんの早期発見に貢献するクリニック」を目指し2010年10月に開院した「まつおかクリニック」では、電子カルテ「Medicom-HR」とPACS「Plissimo EX」を導入、接続することで電子カルテとCTや内視鏡等の各種画像とのシームレスな連動を可能にした。その過程には多くの課題が存在したが、メーカーとディーラーのサポート、スタッフの努力により、利便性、経済性、患者満足度の高い診療体制を構築した。「運用開始までに特に大きな苦勞はなかった」と話す松岡院長に、IT化成功の秘訣を聞いた。

まつおかクリニック (奈良県北葛城郡王寺町)

院長 松岡 正樹 氏



スタッフには専任の放射線技師も



高校の同級生が設計したという居心地重視の待合室

稼働 電子カルテシステム

Medicom-HR

メディコム-エイチアール(三洋電機)

稼働 画像ファイリングシステム

Plissimo EX

ブリッソイ-エックス(パナソニックメディカルソリューションズ)

システム選択のポイント

- 操作性がよく、診察のスピードが落ちない
- 患者さんにすぐに画像を見せて説明できる

がんを早期発見するために

CTを導入したクリニックを開業

—開院の経緯と“画像”に注力されている理由についてお聞かせください。

独立の動機は、がんの早期発見ができるクリニックを作りたいからでした。

勤務医時代、抗がん剤治療に携わっていたのですが、がんで亡くなる患者さんを目の当たりにした中で、大きな疑問がふくらんでいたのです。がんイコール必ず死ぬ病気ではありません。それなのに、あまりに多くの方が亡くなるのです。それは、発見が遅れることで、手遅れになってしまうからです。

なぜ発見が遅れてしまうのでしょうか。「検査に行く時間がない」と言う患者さんが多いのです。「だったら、仕事を休まなくても検査に行けるクリニックを作ろう」。そう思ったことが、まさに開院のきっかけです。ですから、日曜も平日の夜も検査ができる体制を整えています。

その日のうちに検査ができて、大まかな検査説明が聞けるというのは、当クリニックならではの長所だと思います。また“画像”への投資に積極的なのも、がんの早期発見に極めて有用だからです。

クリニックに適したアレンジで
使い勝手の良いシステムを構築

—電子カルテにMedicom-HRを選定した理由についてお聞かせください。

もともとCTをはじめとした画像機器の全てを電子カルテと連動させたいと思っていたのですが、候補としていた電子カルテメーカーの、どこからもいい返事がもらえなかったのです。そのため、病院向けの電子カルテの機能を落として構成するしかない諦めかけていました。その矢先、メディコム代理店が「Medicom-HRとPACSを連動させると実現できる」と言ってくれたのです。私の無茶な要望に応えてくれたのが、メディコムだけだった

というわけです(笑)。

—PACSにPlissimo EXを選定した理由をお聞かせください。

PACSに関してはメディコム代理店に任せていたのですが、実は以前勤務していた病院でもパナソニック社製PACSを使っていたのです。その頃からパナソニックのPACSは使いやすいと評価していたので、メディコム代理店から提案があった時は迷うことはありませんでした。

以前勤務していた病院ではCTしか接続していませんでしたが、今は内視鏡やエコーなども全て接続しているので、とても便利です。スピーディな画面展開や安定性は、全く文句ないですね。各種画像を見せて説明できるので、患者さんも満足してくれています。

—実際にMedicom-HRやPlissimo EXを使ってみての感想をお聞かせください。

まず、Medicom-HRですが、導入前に出した私からのいろいろな要望が反映さ

れていて、とても使いやすい電子カルテです。以前勤務していた病院では紙カルテで診察をしていましたが、その頃よりも確実に診察スピードが上がっています。

Plissimo EXについては、操作性もよく、極めて臨床に有用なシステムだと思います。検査機器からアウトプットされる画像も撮影直後からDICOMビューアで高速表示できますし、過去画像もスピーディに参照できるので、ストレスなく読影も行えます。電子カルテとの連動もとてもスムーズです。

—スタッフからの評価はいかがですか。

事務部門に関しては、レセプトの返戻はほとんどありません。開院前に開業医の諸先輩から「レセプト作成時期の残業代がかなりかかる」と聞かされていましたが、今のところ当クリニックのレセ残業代はゼロです。診察時間が夜9時までなので、残業がないのは本当に助かります。放射線技師からの要望も取り入れて



院長の松岡氏は、導入のポイントを「担当者にコンセプトとやりたいことだけを伝えて、すべてお任せしたのがよかったのかもしれないですね」と語る。

Clinic information

働く人に配慮した“駅前・夜診療”が特徴のクリニック

2010年10月、JR王寺駅から徒歩1分のショッピングセンター3階にて開院。院内で検査が完結するように、内視鏡やカプセル内視鏡だけでなく、16列マルチスライスCTも導入している。平日働いている人でも検査を受けられるように、午後の診療時間を18時から21時に設定。土曜の午前午後、日曜の午前も診察を受け付けている。

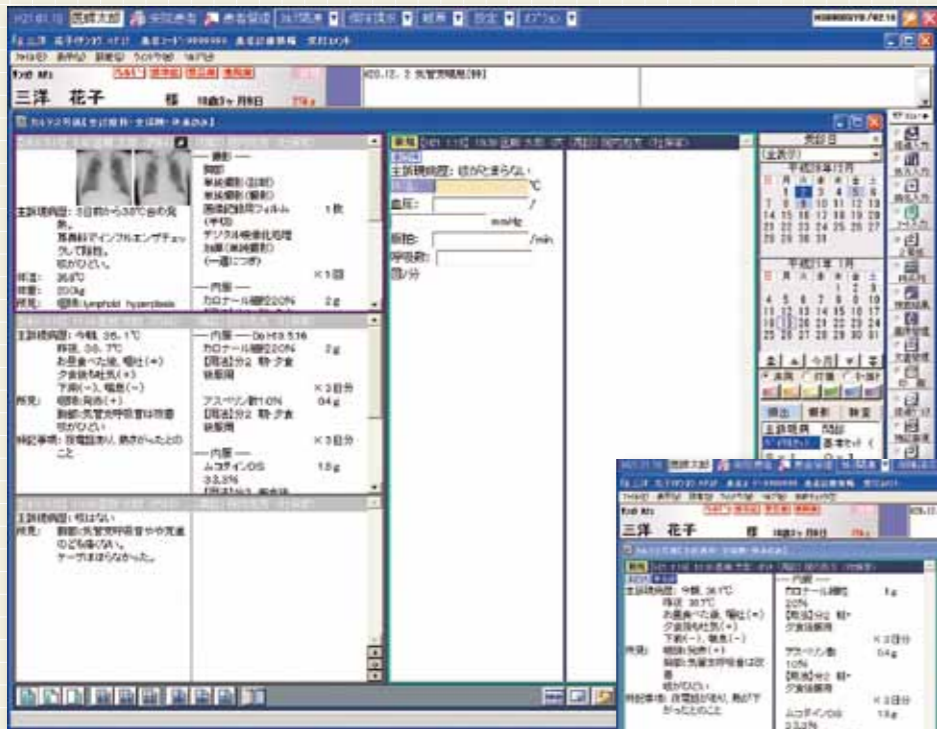
クリニック内も仕事帰りのビジネスマンへの配慮が行き届いた設計となっており、待合室には無線LANを完備。壁を隔てたスペースには、ノートパソコンを持ち込んで作業できるデスクも用意している。さらに検査前の患者がリラックスできるように、待合室から離れた受付横のスペースにキッズルームを設置。その壁面と受付には、サッカーJリーグ入りを目指す奈良クラブのジュニアの子どもたちによるアートが描かれている。

スタッフは常勤の医師1名、非常勤の医師3名、放射線技師2名、看護師7名、事務6名。



まつおかクリニック

- 住所：奈良県北葛城郡王寺町 2-9-15 ル・カーラビル 3F
- 電話：0745-33-1500
- 標榜科目：内科・消化器内科・放射線科



電子カルテ2号紙画面

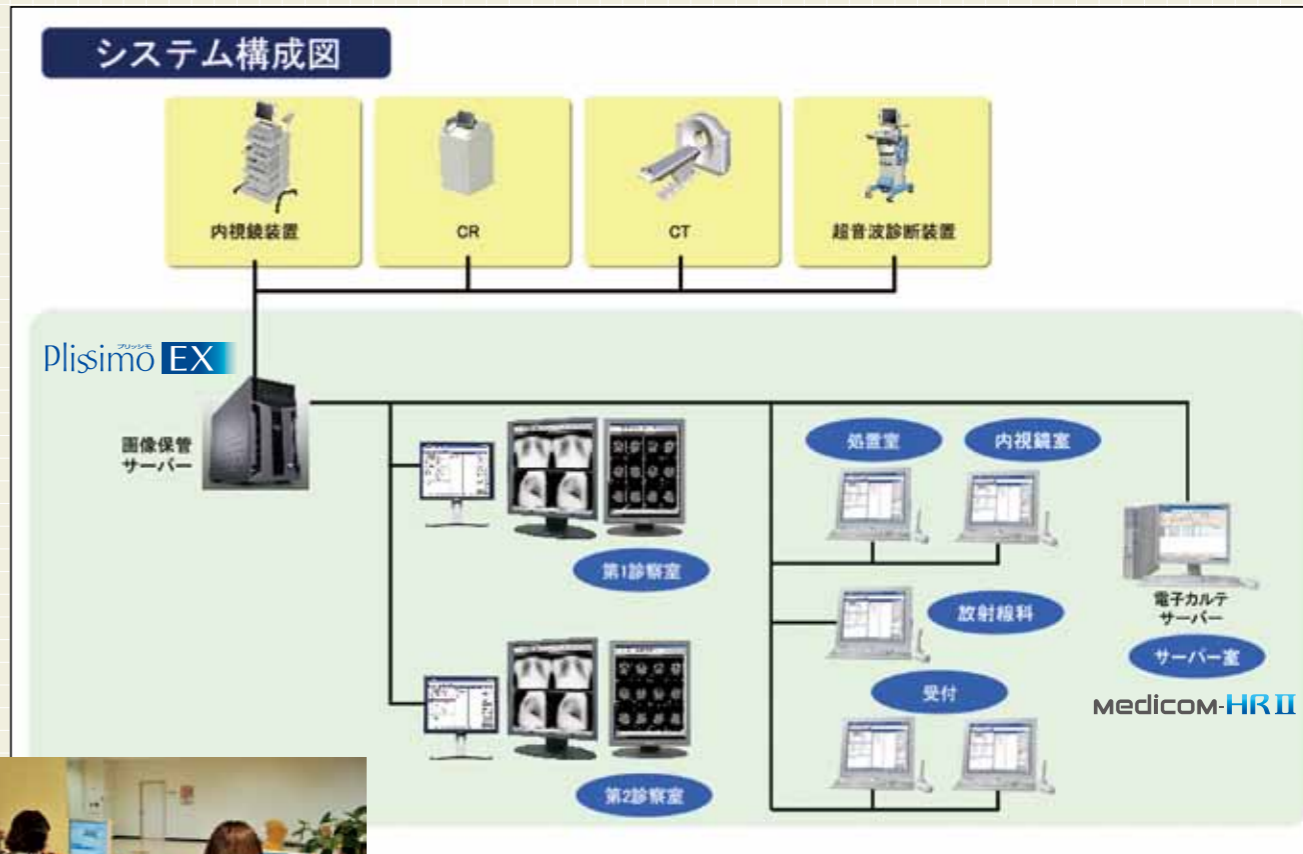
紙カルテと同一のレイアウトで、紙カルテからも違和感なく移行できるデザイン。見やすく使いやすい、電子カルテの原点を実現している。

会計チェック画面

カルテには診察に関する情報のみ表示。会計画面には、カルテから会計に必要な情報を自動算定して表示し、カルテ画面と会計画面を並べて確認することができる。



処置室にも端末を設置し、スムーズな入力を可能にした



受付では、Medicom-HRが会計のスピードアップに役立っている

スタマイズしているもので、PACS に関しても好評です。電子カルテも PACS も、「この部分がよい」というのではなく、バランスもよく全体的に使い勝手のよいシステムです。—どの程度のトレーニング期間で使いこなせるようになりましたか。

電子カルテに関してはデモ患者を用意して行ったトレーニングは1日だけです。あとは運用しながら慣れていった感じですね。ただ、開院当初は空いている時間も多かったのですが、その間に気付いた点をスタッフやメディコム代理店のインストラクターと話しながら改善してきました。その積み重ねで、患者数と電子カルテの成熟度とスタッフのスキルがリンクして向上していったのだと思います。PACS についてはトレーニングの必要は全くなかったですね。

—アフターサービスはいかがですか。

電子カルテ、PACS ともに対応の良さは随一と評価しています。電子カルテでは、初期稼働においてインストラクターの存在は

極めて大きいですが、アドバイスも的確で、いつも助けられています。

例えば、A という機能はないのかを尋ねたとします。そんな時に「A は搭載していませんが、B を応用すれば A と同じ機能として使えます」というような代替案を即座に提案してくれます。普通はトラブルが発生すると「復旧までこれくらい時間をください」という話になりますが、まずは診察に支障がないような対処法を教えてくださいと解決してくれるので、困ることはありません。会社としての対応も早く、不満や不安は全くないですね。PACS についても、電子カルテとの相性も良いらしく、トラブルなく稼働しています。

—アレンジを加えた中で、とくに重宝している機能があればお聞かせください。

Medicom-HR の一覧で表示される来院患者情報の中に、スタッフからのメッセージが書き込める欄を用意しています。その

ため診察室にいながら、院内の患者さんの状態を把握することができるのです。また、ダミーの患者を準備し、その患者へスタッフ向けのコメントを付加して来院受付することで、院内情報交換に活用しています。随時更新される情報が目の前にある状況なので、それを見れば円滑に仕事を進めていくことができます。クリニックを広く作った分、意思疎通が困難になる恐れもあったので、このメッセージボード機能には助けられていますね。

患者満足、利便性、経済性の向上がIT化最大のメリット

—電子カルテ、PACS ともにコストパフォーマンスはいかがですか。

コストパフォーマンスはとても高いです。おそらく、このシステムを見た人が想像するコストの半分以下で導入できているのではないかと思います。

語弊があるかもしれませんが、クリニ

ックも利益がある程度なければ存続できません。ですからIT化を進める際も、医師が使いやすく、患者さんのためになって、利益も上げられるシステムを構築する必要があります。しかし、それら全てを備えている電子カルテやPACS はあまりないように思います。そんな中で、Medicom-HR と Plissimo EX を導入した当クリニックは効率的な診察ができており、患者さんからも喜ばれています。経済的にも大変貢献してくれています。

スタッフがクリニックの経営状態に関心を持つようになり、よりよいクリニックにしようと努力してくれているのも、検査件数の増減などのデータを含めて、全ての情報がすぐに見られるIT化のメリットのひとつだと思います。それら間接的な影響も含めると、Medicom-HR と Plissimo EX のコストパフォーマンスは計り知れないですね。

—電子カルテやPACS の導入を検討し

ている先生方へのアドバイスをお聞かせください。

私の場合、電子カルテやPACS に大きな期待を寄せていたので、担当者にはかなりわがままを言ったような気がします。理想を口にしながらも、「ここまでは無理かな」と思っていたのが正直なところですが、満足させてもらえたというより、それ以上のレベルを実現してくれました。しかも、コストを大幅に抑えた上で、です。それが可能になったのは、無理だと思いつつも、とりあえずこちらの要望を伝えたからです。本当によいベンダと担当者に恵まれ、幸運だったと思います。

私の経験から言わせていただくと、候補として考えているメーカーには、とりあえず自分のやりたいことを全て伝えることをお勧めします。そして、その要望にどこまで応えてくれるのか、レスポンスは早いのかなどを見極めて、メーカーを選定してみたいかがでしょうか。

Doctor

松岡 正樹 (まつおか・まさき)
1965年6月17日生まれ。1994年9月北里大学医学部卒業。1995年4月北里大学付属病院内科入局。医療法人健生会土庫病院副院長を経て、2010年10月まつおかクリニック開設。現在に至る。